



台風や大雨へ備える！

8月に入り、東北地方に台風が上陸しました。台風や大雨は、毎年各地で大きな被害をもたらす一方、事前に予測できるので、水害や土砂災害が発生する前に避難することができます。

まずは、各自治体が作成するハザードマップで水害リスクを確認するとともに、避難先を確認することから始めましょう。

時間の経過とともに、台風の動きや雨の量、川の水位と注意すべき情報が多くなるので、最新の防災情報を入手し、避難準備をすることが重要です。

浸水リスクのある学校では、浸水を想定した避難訓練を実施するとともに、浸水時の対応について保護者や地域住民とも情報を共有しておくことも必要です。

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(河川)
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	5 氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難! > ~~~~~					
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3 氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2 氾濫注意情報	—
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1 —	—

市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

【内閣府 WEB より】

## 高校生サイクルサミット2024開催

8月2日に自転車の交通事故防止と交通ルール・マナー向上の定着を図るため、県内外25校から53名が参加して高校生サイクルサミットを開催しました。

各学校で主体的に取り組んでいる活動について情報共有を行うとともに、安全な通学を実現していくための効果的な実践についてグループで話し合いました。

### 【高校生から出された取組アイデア例】

- 無事故連続日数の記録
- 地域の小中学校と合同で交通安全運動を実施
- 上級生から下級生への声掛け
- 部活動内での声掛け
- 学校独自の交通安全キャラクター製作
- オリジナルヘルメットデザイン
- ヘルメットファッションショー





# 秋の全国交通安全運動実施

—令和6年9月21日（土）から9月30日（月）まで—

## ■全国重点■

- ・ 反射材用品等の着用推進や安全な横断方法の実践等による歩行者の交通事故防止
- ・ 夕暮れ時以降の早めのライト点灯やハイビームの活用促進と飲酒運転等の根絶
- ・ 自転車・特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底



9月30日（月）は『交通事故死ゼロを目指す日』

## 【県内児童生徒等の交通事故傾向：令和6年7月末現在（宮城県警WEB）】

### ■未就園児、園児、小学生及び中学生に多い事故

- ⇒ 四輪車等同乗中でシートベルトの着用率が低い。
- ⇒ 歩行中の飛び出しが原因の事故が多い。

### ■高校生に多い事故

- ⇒ 自転車乗用中で「動静不注視」*が原因の事故が多い。

* 相手が止まってくれるだろうなどと他の車や人の動きの確認を怠る



## 自転車は歩道を走行してもいいの？

みなさんは、歩道を走行している自転車を見かけたことがあると思います。そもそも自転車は歩道を走行していいものか、ここで確認しておきましょう！

### 【確認！】

- ◎ 原則として車道か自転車道を通行する
- ◎ 道路左側の路側帯の通行も可能
- 普通自転車が例外的に歩道の通行を認められるケース
  - ・ 歩道通行可を示す道路標識等がある場合



- ・ 13歳未満の児童や幼児、70歳以上の高齢者、身体に障害がある方
- ・ 道路状況でやむを得ない場合（車道の通行が危険）



- 歩道の中央から車道寄りを走行
  - 歩道では、すぐに止まれるような速度で進行し、歩行者の通行の妨げとなる時は、一時停止
  - 歩道や路側帯で歩行者がいる場合に、注意を呼び掛けるためベルを鳴らすのはNG
- ※ベルは、危険防止上やむを得ない場合や、警笛鳴らせの標識がある場所で鳴らすもの

